

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
7	川窪 吉男（29）	<p>1. 富士市における救急医療体制の充実について</p> <p>(1) 富士市における救急医療体制の在り方について。</p> <p>本市では、救急受入れ困難事案、いわゆる630問題が県内でも突出した件数であるのは周知の事実です。その中で、今年1月から富士市独自の取組として、特に630問題の多い平日昼の時間帯に富士市医師会の協力の下で一次救急輪番体制が構築され、630問題の件数は減少してきています。また、富士市立中央病院では初となる救急専門医が週1回配属され、救急患者も大分スムーズに受け入れられています。</p> <p>しかし、630事案は依然として発生しており、特に当市の救急医療の要である富士市救急医療センターでは、支えてくださっている医師会会員の先生方の高齢化や、大学病院での働き方改革による派遣医師の持続性等、今後も現在と同じような体制を維持することは難しくなっています。そこで、本市における救急医療体制について市の考え方を確認するため、以下伺います。</p> <p>① 救急医療センターの今後の存続について、どのような考え方なのか伺います。</p> <p>② 昼の時間帯の一次救急輪番体制の今後の継続についてどのように考えているか、また、それ以外の630問題が発生している8時台と18時台の時間帯についてはどのように考えているか伺います。</p> <p>③ 富士市では私的病院に委託している二次救急輪番体制が外科のみとなり、内科での輪番体制はしばらく構築できていない状況が続いているが、内科、外科の枠にとらわれず、富士市独自の二次救急医療体制を担えるような仕組みを構築してはいかかが伺います。</p> <p>(2) 救急隊の判断による搬送先医療機関の選定と医療機関の受入れ体制について。</p> <p>救急隊は患者の状態に見合った医療機関へ収容の依頼をしているが、救急隊の判断による一次救急医療機関と二次救急医療機関の選定では、断られるというケースが発生している。そのため、救急隊が一次、二次と判断する収容依頼先に、スムーズに受け入れてもらえるような体制を構築できないか伺います。</p> <p>(3) 年末年始の感染症流行を見据えた富士市の対応について。</p> <p>新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行されて1年が経過しました。行動制限や感染症への補助など様々な支援策も廃止され、通常的生活様式となりつつあります。しかし、新型コロナウイルスに感染することにより重症化してしまう人がいる病気であることは同様であり、引き続き一定の感染対策や今後の新興感染症への備えは必要です。</p> <p>特に、年末年始は多くの医療機関は休診となります。昨</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
7	川窪 吉男（29）	<p>年富士市で行った年末年始の発熱外来の輪番体制では、5日間で1000人以上の患者が来院されたそうです。この数を救急医療センターが一手に引き受けた場合、本来診るべき疾患が診られなくなる恐れがあります。そこで、富士市における年末年始の感染症流行を見据えた対応についての考えを伺います。</p> <p>① 今年度の年末年始の発熱患者への対応は、どのような方策を考えているか伺います。</p> <p>② 平時からの感染症対策として、関係団体が一堂に会して議論するような委員会等の協議の場を設置したらいかがか伺います。</p>	市長 及び 担当部長